

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年2月15日

JAMA:

妊娠中の新型コロナワクチン接種は出生児に悪影響をもたらさなかった

【松崎雑感】

北欧の20万人の新生児を対象とした研究です（半数は妊娠中に新型コロナワクチン接種あり）。ワクチン接種母親群の新生児の周産期合併症は、非接種母親群の新生児と差がなく、それどころか死亡率などが有意に低下していたという結果でした。母体へのワクチン接種がダイレクトに新生児に好影響をもたらしたという証拠はなさそうですが、いずれにしても、妊娠中あるいは妊娠予定の人々は、未来の子どもを守るために新型コロナワクチンを接種することが推奨されるという内容と考えます。

妊娠中の新型コロナワクチン接種は出生児に悪影響をもたらさなかった

Norman M, Magnus MC, Söderling J, et al. **Neonatal Outcomes After COVID-19 Vaccination in Pregnancy.** *JAMA.* 2024;331(5):396-407. doi:10.1001/jama.2023.26945

重要性

妊娠中の新型コロナmRAワクチン接種が、新生児に悪影響をもたらすかどうかを検討することは、ワクチンの安全性に関する懸念に対処するのに役立つ

目的

妊娠中の新型コロナmRAワクチン接種により新生児に望ましくない事象が起きたかどうかを調査する

デザイン、設定、および参加者

2021年6月から2023年1月までに生まれたスウェーデンとノルウェーのすべての乳児を含む人口ベースのコホート研究。個人識別番号を使用して、さまざまな国家登録簿の個人情報とリンクして解析した

曝露:妊娠中の新型コロナmRAワクチン接種履歴、銘柄は問わず

評価項目

新生児の出血/血栓症、炎症/感染症、中枢神経障害、循環器系、呼吸器系障害、胃腸系障害、新生児死亡率

結果

評価対象新生児196,470人(男性51.3%、満期産93.8%、スウェーデン生まれ62.5%)のうち、94,303人(48.0%)の母親が妊娠中に新型コロナmRAワクチンを接種された。これらの新生児において有害なアウトカムのおッズの増加は見られなかった。一方、新生児の非外傷性頭蓋内出血(イベント率、1.7対3.2/1000;調整オッズ比[aOR]、0.78 [95%CI、0.61-0.99])、低酸素性虚血性脳症(1.8 vs 2.7/1000;aOR、0.73 [95%CI、0.55-0.96])、および新生児死亡率(0.9 vs 1.8/1000;aOR、0.68 [95%CI、0.50-0.91])が有意に低かった。妊娠前ワクチン未接種者、妊娠前にワクチンを接種した人、妊娠中のワクチン接種の一般的な推奨が出された後にワクチンを接種した人、および妊娠中にCOVID-19に感染していない人によって分娩された場合において同様な解析を行ったが、妊娠中のワクチン接種により新生児死亡率が低下していた。満期産児、単胎児、または先天性欠損症のない乳児に限定した解析でも同様の結果が得られた。ワクチンメーカー別の解析を層別化しても、ワクチン接種と新生児死亡率の有意な低下は持続した。

考案

この大規模研究で、妊婦に対する新型コロナmRAワクチン接種が、新生児に有害な影響をもたらす証拠は見られなかった。（それどころか、新生児死亡などの有害事象が有意に低下していた：松崎）